

No. 60

1983.

1. 15

岐阜の博物館

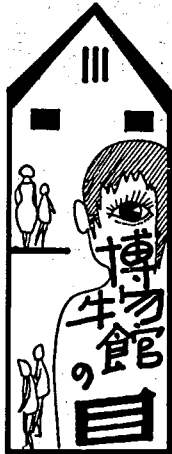
〒501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL(05752)8-3111(代)
振替 名古屋 6 37909

編集兼発行

三県交流研究会に参加して

今後の研究会に望むこと!

日本モンキーセンター 学芸員 大竹 勝



岐阜県博で開催された、三県交流研究会に参加し、今後の研究会のあり方について考えを述べさせていただく。今回の研究会が、日博協の開催する学芸職員の研修会と比較しても、一步も遅れをとらないだけ立派に運営されたことは私も認めるし、多くの参加者も認められることと思う。これだけの会を運営された岐博協の方々の努力や会場の県博の方々の努力は大変であったであろうことは想像出来るだけに、参加者としては感謝しているが、学芸職員として研究会を考えた場合、何か物足らなさを感じるのは私だけであろうか？ 今回のテーマが博物館は見学者のニーズにいかにか答えるかであったが、学芸職員は研究会に何を求めて参加しているのだろうか、考えてみる必要がある。

最近、博物館展示が展示業者スタイルで進められ、全国に、ミニ国博や科博が多く出現し、地方博物館の地域性が失われ、これでいいのだろうか、学芸員間でよく討議の話題になる。これは各種研究会においても同じ傾向を示し、本誌59号でK・F氏が述べられているように、「単なるお祭りの年中行事」になっているのである。「講演を聞き、懇親会に参加し、エクスカージョンでお開き」このワンパターンである。日博協の研修会も、昔と違って、お祭り？である大会のミニ版になりつつある。参加者もそれを反

映して中堅学芸員の参加が少なくなり、参加しても得られるものが少なくなっている。地方の研究会がこうした中央の集会のクローンになる必要は何もない。

私も学芸員になって10年以上になるが、これで良いと思ったことは一度もない。日々暗中模索である。学芸員の業務はこれで良いという公式はない。試行錯誤の積み重ねの中からその博物館の独自性を創り出し、力となっていくのではないだろうか。中堅はマンネリになりやすい。新人は経験が少ない。相互研鑽ができる研究会を参加者は求めているだろうか。各館のつき合い上、やむなく出席といった博物館友の会にしてはならない。研究会がそうした形になれば多くの業務をかかえた問題意識を持った学芸員は参加しなくなるのは当然である。内容があれば急がしくても、何とか時間をやりくりし、館から出張旅費も出なくても手弁当でも参加する学芸職員も多くなり、研究会の効果も上るものと思われる。

懇親会も重要な情報交換の場であるが、宴会そのものが主題になっていないだろうか。参加者は研究会に参加したのであり、物見遊山に集まったのではないということを充分認識したい。立派な料理が必要なのではなく、仕事の話をかきかき、かみしもぬいで、ひざつき合せて語り合うのが、研究会の懇親会なのではなかろうか。エクスカージョンにしても、その研究会のテーマとどうつながるかを考えるべき ※(P.7へ)

御母衣ダム展示館

▽ 501-55 大野郡白川村牧
TEL <05769> 5-2012

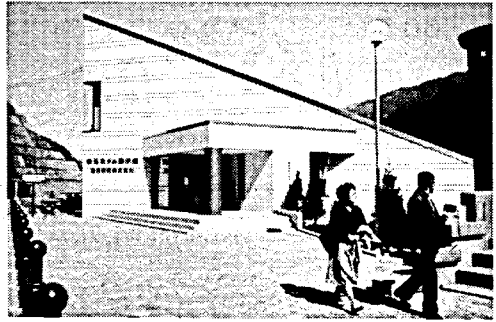
本館は、ロックフィルダムとして有名な御母衣ダムの左岸に、斜面を利用して建てられている。去る9月23日にオープンしたばかりで、三角形の白壁が湖面に映って美しい。設置者は、ダムを造った電源開発株式会社である。

玄関を入ったところが2階のホールで、その中央にある4mにも及ぶ避雷器は、宇宙船のような形をしていておもしろい。

庄川流域には、これまでに13のダムと20の発電所が造られているというが、よく利用されている川だなと驚きながら、パネルを読む。1階の展示室へおりるとき、窓を通して、対岸のきれいな紅葉が目に入った。

ここは、学校の教室の2つ分ぐらいあり、いくつもの展示が見られる。ボタンを押すと豆電球が付き、ロックフィルダムの構造や利点、発電所の位置などがわかる。いちばん興味深いのは、発電実験と模型電車の展示である。落下する水の高さを変えると水車のまわり方も変化し、それによって起きた電気で走る模型電車のスピードが変化するという仕組みである。まだ調整

(1階展示室)



(御母衣ダム展示館全景)

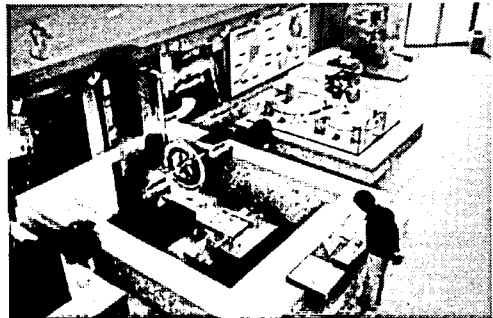
がよくできていなくて、車とレールとの間の摩擦が大きいためか、電車の動きがスムーズでなかったが、位置エネルギー→電気エネルギー→運動エネルギーというエネルギーの変換について、楽しく学習できよう。

その横には、発電機のしくみなどが、コルトンによって解説されている。当社が、電力を多く必要とする時代の要請にどう対応しているかなどについても、スライドやパネルなどでわかりやすく紹介されているようである。

最後のコーナーでは、荘・白川郷の名所を紹介しているが、湖底に沈んだ昔の村落の資料なども展示してあると、いっそう興味深いと思った。ここを見たあと、平瀬にある村営温泉に入るのも、家族づれのよいコースではなかろうか。

なお、休館日は第2・第4水曜日と、11月中旬から4月上旬の雪積期間で、9時30分から5時(7~8月は6時)まで閉館している。希望により地下発電所も見学可能、入館は無料である。

(発電実験と模型電車のコーナー)



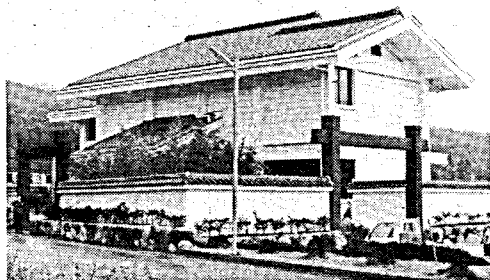
関ヶ原町歴史民俗資料館

▽ 508-15 不破郡関ヶ原町
陣場野 894-28
TEL <05844> 2-2665

戦国時代の総決算とも言われる関ヶ原合戦、そのゆかりの地陣場野公園に「関ヶ原歴史民俗資料館」が誕生しました。これまでの町立郷土館は発展的に解消され、新しい土地に全く新しく設置されたもの、外観は、いかにも歴史の町にふさわしい純日本の建築様式です。

1階に主な展示室、事務室があり、2階には収蔵庫2室、学習室・小展示室が設けられています。昭和37年 新幹線工事のために行なわれた中野遺跡の発掘、その出土品の石鏃、石槍、土器片など縄文中期の遺品、あるいは東山道の宿駅資料、中山道の一宿駅資料、さらには、天下分目の合戦資料などがみられます。ことに、ボタンを押すことによって、刻々と戦況の変化がわかる「関ヶ原合戦立体模型」は目玉展示品といえます。

他に明治・大正時代に使われた民具・農具、日常生活用具などの民俗文化財も多く保存されまた展示されています。県下各地に、こうした歴史民俗資料館が、市町村立で続々と誕生していることは嬉しい限りです。外観は、それぞれに一応工夫はされ、地域色を出すように作られています。内容的にはほとんど同じ、考古資料（歴史）展示と民俗民芸資料展示の二室をも



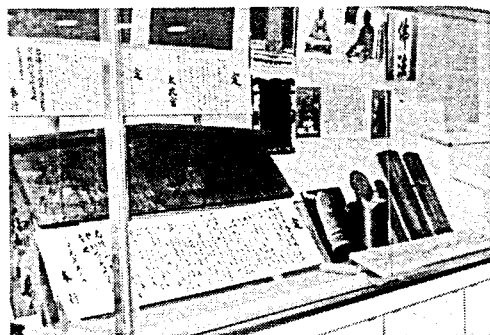
（建物の全景）

ち、どこの歴史民俗資料館も、ほぼワンパターンであるのは気になります。設置の目的、その名称からすれば『資料館』ですから、資料の収集保存を第一義とし、併せて展示することによって教育普及を第二義的にしていることは仕方のないことかもしれません。しかし、だれのために、何のために考古資料、歴史・民俗資料を収集・保存するのでしょうか。市町村民の、いわば多くの人々の公共の財産として、文化遺産を収集保存するのですから、最大限一般大衆に活用されなければ設置されている意味がありません。ふるさとの歴史学習、民俗学習、いわば郷土学の殿堂として、市町村民の学習の場とならねばなりません。そのためには、教育活動に従事できる人こそ確保されねばならないし、事業活動こそが生命線です。今後の社会教育実践が大いに期待されるゆえんです。

開館 4月～10月 9時～16時30分、11月～3月 9時～16時。休館日：月曜日、祝祭日の翌日、年末年始、入場料：大人200円 小中学生100円、(30人以上団体 大人150円 小中学生70円)



（約8分のナレーションとともに……）



（展示室の一部）

第30回 全国博物館大会に参加して

— 編 集 部 —

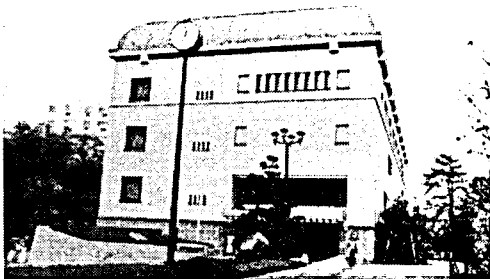
昭和57年11月5・6日の2日間、愛媛県松山市にある市立子規記念博物館において、全国からの300余名におよぶ博物館関係者が集まり、博物館大会が催された。大会テーマは、「生涯教育に対する博物館の適応とあり方」であったが、全体会あるいは分科会において、深まりのある討議が行われた。それらの概略を、次に紹介する。

大会テーマのもとに博物館の今日的なあり方を見つけよう、という徳川宗敬日博協会長の挨拶で開会式が始められ、顕彰式では全国の多くの博物館功労者が表彰された。全体会では、毛利正夫日博協専務理事から、目下まとめられつつある博物館白書の中間報告が行われた。

この白書の趣旨は、全国の博物館及び類似施設の設置状況や活動の実態を明かにし、今後の博物館の普及、利用、研究、教育などに資するための基礎データとするというものである。そのデータは、あとの分科会の中でも、討議の材料として大いに取り上げられていた。

わが岐阜県は、館園数の多さでは北海道、東京について第3位であり、それを人口10万人当りに換算すると、全国で第1位になるということであった。日ごろの岐博協の活動ぶりから見ても、わが県は博物館活動の盛んな県であるということができよう。

5日午後から6日の午前にかけて、3つの分科会が開かれたので、その概略を記す。



(大会々場となった市立子規記念博物館)



(大会々場風景)

◎第1分科会 「博物館の運営について」

この分科会には、約80名の参加者があり、管理者がその多くを占めていた。

座長は名古屋市博物館長浅井研一氏、講師は文部省社会教育局社会教育課専門員加藤雅晴氏、愛知県立美術館長西田春善氏であった。

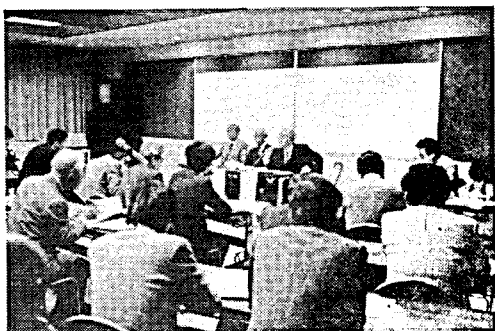
座長から初めに分科会の持ち方について説明があった。文部省の加藤雅晴氏からは、公民館施設が整備されて来たので、しだいに博物館や図書館の整備に当たりたいと思っているが、中教審や臨調のメンバーの中には、最近博物館・美術館の開設が目立っているためか、教育文化施設の整備補助はもう必要ないとか或いは同じような博物館を各県に造るのは問題があるとの考え方が増えてきているので、その対応に一層の努力を必要とする、との発言があった。

西田春善氏は、博物館とは文化と言う水を市民に供給する泉であり、住民に対して文化の水を如何に齊しく供給するかが、われわれの責務ではないかと考えている、と発言された。

分科会は2日間に亘って行われたが、博物館の種別が多く、規模には大きな開きがあり、さらに公立と私立では立場が異なるので、意見はまちまちであった。しかし、大別すれば私立は運営費の確保、寄贈者や資料の譲渡者に対する免税の問題、公立の場合は学芸員の資質の向上と待遇の改善要望などの声が多くあった。そのほか登録博物館、相当施設の中で活動していない

所が見受けられるので文部省から関係教委に対して通達を出してほしい旨の要望もあった。まとめとしては、税金の問題と、学芸員の問題、関係機関の連携などについて大会決議とすることとなり、全体会議で他の分科会の提案とともに採択決議された。

◎第2分科会 「博物館活動について」



(分科会々場風景)

この分科会の座長は熊本県立美術館長小山岑雄氏、講師は福井県立美術館長重達夫氏、斎藤報恩会自然史博物館理事斎藤温次郎氏であった。

博物館活動を活発にするための方策として、巡回展というものがある。青森県立郷土館では、東京国立博物館から資料を借用して、「日本の美」という展示をしたところ、好評であった。また、国立科学博物館は「レオナルド・ダ・ビンチ展」を、資料を貸し出して36か所で開催されているそうであるが、必要があれば地方の館も申し出てほしいとのことである。

やはり、ブロック内の数館で特展を構成して巡回させることも、少ない資料を有効に活用することになる。そのために、日博協や国立博物館あたりが、もっと働いてほしいという要望も出された。

資料については、台帳や目録の形式を統一していけば、相互交換も可能になろうと考えられるが、これからはコンピューターの活用が望まれる。中央に、コンピューターを用いた情報センターを置くようにしたい。また、コンピューターについての勉強は早目に始めたほうがよいと、先進館からの発言があった。しかし、高価であるため、まだまだ普及していないようだ。

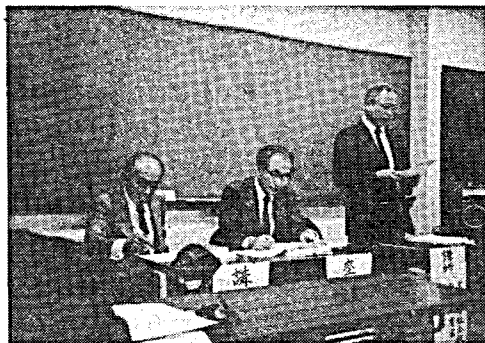
博物館が生涯教育の場となるためには、まず入館者が多くなければならない。東芝科学館では、館を中心とした半径10Km以内の学校をすべて洗い出し、訪問し来館を勧誘しているとか、学校との連携を強調しておられた。しかし、入館者の質も大切であるので、それを把握するために、アンケートを取ったり、学芸員や解説員が入館者に問いかけて反応を確かめたりする方法も効果的であると紹介された。それにしても展示を評価することは、大変にむずかしいようで、今後研究されねばならない大きな問題であると思う。

地方の館園の共通の悩みは、よい内容の展示であっても、入館者が増えないということのようである。特に、私立館については、これが切実な問題である。学校への宣伝・勧誘、報道機関との共催やニュースを流してもらうこと、国からの補助の強化、夜間の開館、もっと奉仕の精神に徹すること……などが話し合われ、意義ある分科会となった。

◎第3分科会 「博物館の施設・設備について」

座長は徳島県博物館長細井宏二氏、講師は文部省社会教育局社会教育官田中久文氏、大阪市立自然史博物館長千地万造氏といった顔ぶれ。

今回刊行された博物館白書にもあるように、空調・防災・サービス設備(身障者対策やエレベーター等)について話し合われたが、近年の博物館の傾向として“ゆとりのスペース(ホールやラウンジ等)”が重視されてきていることや展示スペースに比べて収蔵スペースなどが、まだまだ不足気味なことが明確に浮き彫りにさ



(座長・講師の先生方)

れた。

同分科会出席者の多くが、館の新築あるいは増改築を考えているらしく、田中久文氏に対して、文部省の補助金の出し方についての鋭い質問が飛んだ。返答は以下のものであった。補助金は、①施設整備に対して ②活動に対して ③視聴覚機器などの教育設備に対して、それぞれ出されている。昨年度は、①について17億円、②についても45館に3,225万円補助した。各教委を通して申請してもらえば、積極的に取り組んでいく、と田中講師。そこへすかさず、私立館園の参加者が、公立ばかりでなく弱小の私立館園も同じような仕事で頑張っているのに補助はないのか、と質問。これについては、日博協の毛利専務理事も、下記特別メッセージを出された。

最近、私立大学への補助と同じように、私立博物館への補助も出そうである。しかし、国で考える社会教育施設らしい館園は、公私立あわせて600館程であり、これでは補助の対象にはしにくい。せめてこの倍程度の団体なら、補助可能との感触がある。「登録博物館」あるいは「相当施設」の申請を出して、活発に活動していくことが、補助金獲得につながるだろう…と。

千地万造氏からは、整理保存技術の合理化について提言があったが、コンピューターを導入し始めているのは、埼玉県博・明治村・内藤記念くすり博物館程度で、他はマイコンやパソコンを使った試験的な状態に過ぎない。資料点数があまり増えないうちに、早急に手を染めたほうがよいのでは……という話が注目された。

なお、これらの分科会の取材には、岐阜県博物館次長小野治道氏、内藤記念くすり博物館学芸員古田恵子氏にご協力いただいたので、お礼申し上げる。

大会の最後に、つぎのような決議案が提出され、満場の拍手をもって可決された。岐博協としても、これらの実現のため努力したいものである。

〈決議〉

「生涯教育」の推進に関して重要な役割を担う博物館の諸問題を検討した結果、下記事項について国及び関係機関におかれては、十分留意し、今後一層博物館が振興するよう図られたい。

記

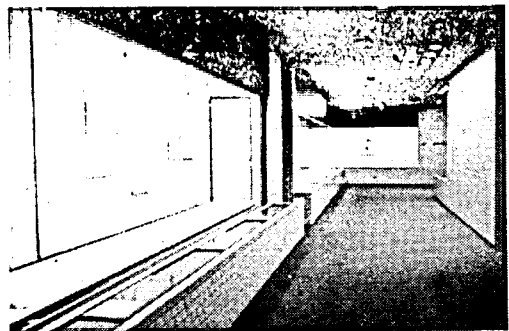
1. 国税等諸税の取扱いについて
 - イ. 博物館資料の寄贈者に対する免税
 - ロ. 現金（不動産、債権を含む）の寄贈者に対する免税
 - ハ. 博物館資料購入代金にかかる譲渡所得税の免税とすること。
2. 公立博物館施設に対する国庫補助を強化し、併せて私立博物館施設に対しても同等の扱いとすること。
3. 博物館の相互協力ならびに学校、公民館、図書館等関係機関との密接な連繫を強力に推進すること。
4. 学芸員の資質向上を図り併せて待遇改善の促進を図ること。
5. 急速に発展したコンピューターシステム利用に対応するための対処・処理機関を早急に設置すること。

以上決議する。 昭和57年11月6日

第30回全国博物館大会

会場となった子規記念博物館は、昨年4月にオープンしたもので、ディスプレイデザイン奨励賞に輝く素晴らしい館である。まさに、第8分科会の無言の講師であるように感じられた。

(Y.S)



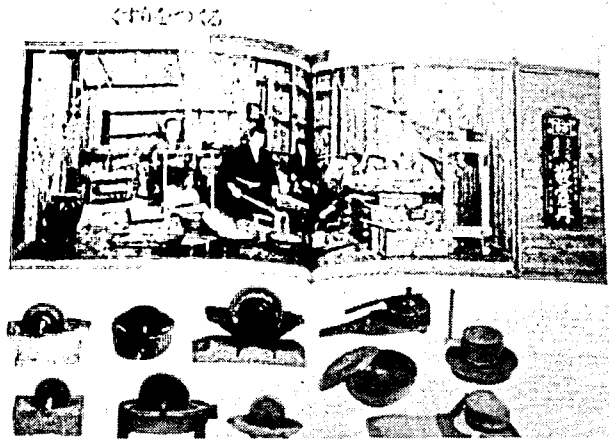
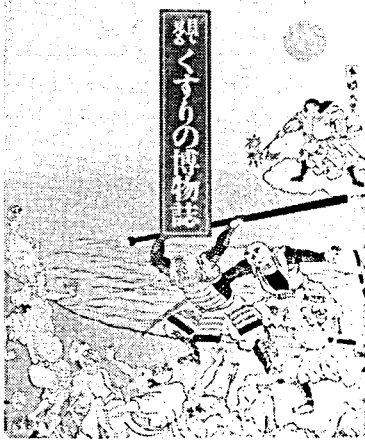
(子規記念博物館の展示)

〈文献紹介〉

目で見る

くすりの博物誌

内藤記念
くすり博物館



これはまたすばらしい家庭親子読本です。医薬に関する貴重な資料12,000点余、図書2万冊、これらの収集・保存資料の中から選りすぐられたものが・健康への祈り・くすりを探し求めて・医薬のあけぼの・薬業の発展・配置売薬のおこり・くすりをつくる・健康への戒め・蘭学のおこり・近代薬学の夜明け・度量衡・海外の資料・収蔵図書といった各タイトル毎に写真で登場してきます。カラー52ページ 総98ページの分量、カラー図版が圧倒的に美しく、眺めているだけでも〈暮らしとくすりの関わり〉に、いやおうなしに目が向き、興味をそそられてしまいます。資料1点1点の写真撮影の技術が優れて秀逸、『もの』のもっている歴史的な重みを感動的な迫力で表現しています。全ページカラ

一版であつたらなゝーというのが、ただひとつの苦言〜というよりも欲ばった願いです。

どこの館にもある「展示解説書」そのものではなく、また一般の人々には縁の少ない「収蔵資料目録」でもなく、まさしく題名のごとき「目で見るとくすりの博物誌」博物館と一般家庭とを暖かな心で結びつける新しいスタイルの博物館刊行物となっていてユニークである。博物館の諸々の教育普及活動の中で、こうした出版情報活動が、どの館の事例にも少なく、また我が国では予算不足等から最も遅れているだけに、快挙として賞讃されるべきであるし、他館への模範となる出版物です。実費で入手できますから希望者は 〒483 羽島郡川島町エーザイ川島工
(058689)
園内内藤記念くすり博物館へ。TEL 3111(代)

※(P.1より) で、時間が無いのであれば無くても良い。主催者は皆さんに来ていただいたのだから、あれも見せたい、これもみせたいといった、サービス過剰な面がないだろうか。博物館はそれぞれ多くの資料を蔵しているが、常にそれを全部展示しているわけではない、その資料をテーマを持ち教育的配慮によって効果的に使用し、教育活動を行なっている。この博物館の持っている精神を研究会にも生かしてほし

いものである。

学芸職員の研究とは何かという本質を見失う時、今回問題になった、運営面で大変だから一年おきにといった議題が提起されるのであって、現場の学芸員のかかえた問題が多すぎ二年も待っておれないのが現状で、形だけにとらわれた研究会なら中止すべきである。今後の研究会は形にとらわれず、地域性を生かした形やぶりの研究会が企画されることを望みたい。

≡ 県内ニュース ≡

岐阜県美術館 華麗にオープン

200万県民待望の美の殿堂、岐阜県美術館が、昨年11月3日、文化の日に華々しく開館しました。近代から現代への美術の流れを展望し、郷土美術の風土と、歴史を確かめ、発展させる美術館であることをめざして、常設展示は、日本画、洋画、彫刻、工芸の四部門が軸となって展開されています。特別展、美術講演会、デザイン実習、親と子の造形教室などの開催等、開かれた美術館として郷土の新しい芸術文化センターの役割を果たします。4月17日まで、開館記念「長良川大賞野外彫刻展」を野外展示場で開催中。大好評だった開館記念特別展「明治15年・パリー近代フランス絵画の展開と山本芳翠」11月3日～12月19日に続いて「83 岐阜現況展」昭和58年1月15日(土)～2月6日(日)を開催中。

久々野歴史資料館建物が完成

大野郡久々野町堂之上遺跡公園内に、鉄筋コンクリート二階建て寄せ棟造り約590㎡で完成、4月より展示作業にかかり7月に開館の予定です。昭和47年に発見された堂之上遺跡は、その後七次にわたって発掘調査され、竪穴式住居跡34ヶ所、多くの土器片、石器類の資料を収集、一帯を遺跡公園として整備保存するかたわら、出土品や民俗資料もあわせ収蔵展示する資料館づくりが進められているもの、1階は収蔵庫、学習室、事務室など、2階に考古資料展示室、民俗資料展示室が設けられています。南側のペランダからは遺跡公園が見渡せます。

西濃記念館 2月に開館

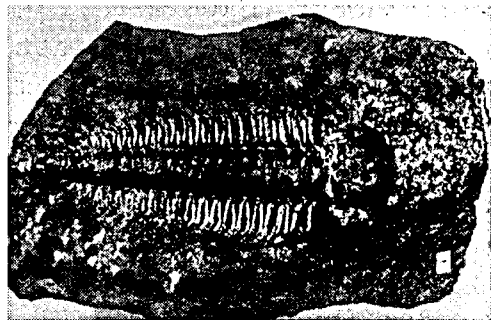
トラック王としてあまりにも名高い故田口利八氏の「福寿草精神」を伝える「西濃記念館」は、大垣市大井町 西濃運輸健保会館東側に設置され、本館、庭園の設置工事はほぼ完了、2月1日の創業記念日に開館が予定されています。旧本社を移築復元した記念館で、木造平屋建て

162㎡、故利八氏愛用の机、愛車ベンツなど、トラック人生がひと目でわかる資料が収蔵展示され、西濃運輸KKの歴史の館となります。

県博資料紹介展 『古生代の化石』へどうぞ

岐阜県博物館では、来る2月11日(金)～4月3日(日)まで、収蔵資料を活用した資料紹介展「古生代の化石」を開催します。過去に特別展として「郷土の化石」「化石の世界」を開催しました。その時には、古生代、中生代、新生代と、概説的に各時代を扱いました。今回は古生代に焦点をあて、日本で最古の福地産の貝形類の化石をはじめ、古生代の代表種サンヨウチュウのいろいろなど国内外の貴重な化石が登場します。

通常の入館料のままでご覧になれます。ぜひお出かけください。



編集後記

◎新年あけましておめでとうございます。雪のない正月に、喜んだ人泣いた人……世の中は、右あれば左、上あれば下、いろいろです。

◎緊縮財政が叫ばれるなか、博物館等の教育活動費も、ご他間にもれず大きな飛躍は望めません。金はなくても、創意と工夫により、地についた博物館教育活動を実践したいものです。

◎新しい年を迎え、何かと気分も新鮮になり、意欲が湧いてくるから不思議なものです。実りある博物館活動の年に／(S.O)